2018▲2019

Sustainable Development Report

持続可能な
事業・貢献活動
報告書
（SDレポート）

YAMADA

はじめに

株式会社山田組の社会・環境貢献活動 2018.4–2020.3

株式会社山田組
代表取締役会長　山田　厚志

最初に、本報告書が2年度分まとめての発信となったことのお詫びから。

中小建設業者である当社にとってこの報告書は義務ではありませんが、それでも「地域に貢献する」を何よりの会社の指針と考えて、日々、本業と様々な社会的な活動に取り組んできましたから、昨年度の未発表は誠に不本意でした。日頃から当社の活動にご注目いただいてきた皆さんの期待に応えることもできず、お詫びします。

もっとも、昨年度の未発表の原因は活動が低調であったからでなく、幸いにも本業・貢献活動とも活況を呈し、それらに取り組むだけで一年が終わってしまったためです。広報や貢献活動の専従社員がいればとも思いますが、もとより私は「中小企業はトップ自ら貢献活動の発信を」と考えていますから、自分の能力不足でしかありません。

お詫びと合わせてお知らせも。

昨年9月末で私は当社の代表取締役社長の座を若い人材に譲りました。これを機に社会的発信の内容もスタイルも、新社長の考えに基づいて一新されると思います。

従って従来までのスタイルの社会・環境貢献活動の紹介は今回で最後となります。

活動のかたちは変わっても、当社の精神として継承されるべき点はしっかりと伝え、同時に新社長以下若い人材の意欲と才能を生かして、自由にのびのびと取り組んでもらえればと願っています。

それでは、拙い内容ですが次頁以降の当社の直近2年度分の社会・環境貢献活動の報告(当社では「SD＝サスティナブル・デベロップメント」レポートと呼んでいます)をご一読いただければ幸いです。

本業にかかる環境負荷低減実績

当社は2000年10月5日にISO9000s、翌2001年11月26日にISO14000sの認証を相次いで取得しました。認証取得に当たっては外部コンサルタントを入れずに社員自らが国際規格を読み込み、「会社利益につながる品質管理と環境管理」を標榜する独自の運用マニュアルを策定して今日まで活動してきました。

当社ISOに基づき掲げた品質・環境の方針とその具体的な実践項目を列記した目標の達成をめざして、施工現場ではさまざまな環境保全活動に取り組み、合わせて地域社会に向けた貢献活動も積極的に行ってきました。その一端については次項以降にご紹介していますので、ここでは本社の取り組みの中から「温室効果ガス排出量削減の取り組み成果」についてご報告します。

下表の数値は、過去2年度分の電気・ガスの本社使用量と工事・営業などで使用する会社車両のガソリン消費量を集計して、所定の排出量計算書に基づき算出したものてす。

温室効果ガス排出量削減実績表

	基準年度 (平成17年度)(2005年度)	平成30年度 (2018.4～2019.3)	削減率
温室効果ガス排出量	122.7t－CO_2	86.7t－CO_2	30.5%
		令和元年度 (2019.4～2020.3)	
		79.6t－CO_2	36.2%

株式会社山田組の環境貢献の歩み

1 はじめに…より良い環境改変を常にめざして

株式会社山田組(以下、当社)は1954年に地元名古屋の建設会社として誕生しました。以来、今日まで道路・河川・上下水・ガスなど生活に密着した社会資本の整備に貢献してきました。

「建設」という仕事は、必然的に事業の対象となる場所の環境を「改変」します。それが「良い改変」なのか「悪い改変」なのかは、その時々の社会情勢や人々の環境意識の深まりなどによっても評価が変化しますが、少なくとも当社は与えられた条件の中で「良い改変」となるために最善を尽くすという意識と技術を有して今日まで事業を展開してきたつもりです。本稿では60余年に及ぶ当社の環境貢献の歩みについて、ごく簡単に振り返りたいと思います。

2 高度成長期…戦後復興～災害復旧～快適な都市環境の整備

我が国が第二次世界大戦によって荒廃した国土をいち早く整備して、生活水準や経済活動が急速に向上した一因には、大小問わず全国の建設業者の貢献がありました。当社も誕生間もなくから名古屋市や愛知県の公共工事を請け負って、市民・県民の日常生活の基盤となる社会資本整備の一端を担ってきました。

1959年、終戦後にようやく整ってきた生活環境はこの年の秋に当地を襲った伊勢湾台風によって再び大きく破壊されました。

名古屋市内南西部に位置する当社も甚大な被害を受けましたが、にもかかわらずいち早く被災地の復旧作業に尽力し、その過程で建設機械の導入・整備や人材補強も進みました。

この時代の「環境」といえば、なにより「人々が安心して快適に暮らすことができる生活環境」を指し、当社はその環境整備に日夜ひたすら取り組むことで社業を発展させました。

3 インフラの高寿命化という「環境」貢献

1970年代に入ると、戦前から整備が進められてきた地下埋設管路の一部に早くも老朽化が始まりました。特に水道管は使用する過程で管内面に「錆こぶ」が付着して漏水や赤水を発生させるようになり、その対策としていくつかの「内面修理工法」が開発されました。

当社はいち早くそうした時代のニーズをつかみ、「エポキシライニング工法」を導入して、主に名古屋市内の水道管の内面修理を数多く手がけました。さらにはその実績を基に「漏水・赤水」対策に加えて「耐震性」も期待できる「更新・更生技術」である「ホースライニング工法」の施工権を取得するとともに、「日本ホースライニング協会(パルテム技術協会に発展)」創設メンバーの一員として業界発展に尽力してきました。

今日では「パルテムSZ工法」「パルテムフローリング工法」など施工対象に応じた各種非開削工法を取得して、「耐震性を付与した地下パイプラインの延命化」という当社の大きな事業の柱に成長させました。

下の画像は当社保有の更新・更生工法の施工の例です。

既設埋設管内にホースを反転挿入するホースライニング工法

大口径管路内に人力で専用部材を設置して更生するフローリング工法

このように既設の地下埋設管路を掘り起こすことなく新管とほぼ同等の状態に回復させ、しかも耐震性も付与できる当社の更新・更生工事は、周辺環境の改変が最小限である上に「社会資本の延命化」を実現できる極めて環境に優しい工事です。

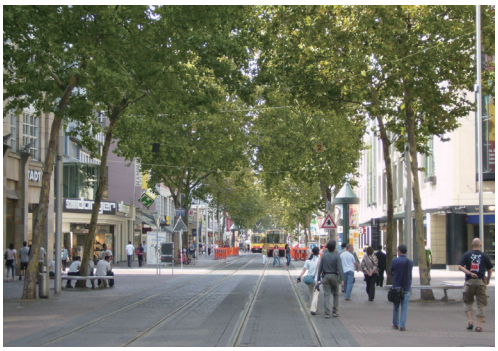
(＊各工法の簡単な説明等は、当社ホームページをご参照ください。)

4 都市のあるべき姿を模索した「環境」貢献

前項までに記した本業を通じての環境貢献と合わせて、当社としてのCSR活動すなわち「企業市民としてこれからの持続可能な社会環境整備に貢献する活動」に1990年代後半から積極的に取り組んできました。

特に複数回の欧州環境先進地の取材を通じて現地関係者との交流を図り、「市民を環境行動に誘導する賢い行政施策」や「河川の再活性化工事」「生物多様性を守る土木構造物」などに対する知見を積み

重ねてきました。こうした経験は、業種や官民の枠を超えた活動に発展して今日に至っています。以下は社外での環境活動の一例です。



1999年～2020年　スイス・ドイツ環境先進地視察(交通政策の視察)

1999年～2020年　スイス・ドイツ環境先進地視察(河川改修の視察)

名古屋市主催の「高年大学」での講義風景(テーマ:近自然工法と防災)

愛知県児童館年次研修担当「動物たちの命を守るエコブリッジ紙工作」

5 市民との協働による「環境」活動

2005年に開催された「愛・地球博」を契機として、市民・NPO・企業・行政などの環境保全活動の協働化が進み、当地では産業界を中心とした「環境パートナーシップ・CLUB(通称EPOC 2000年創設)」や名古屋市よる新しい環境学習の仕組みである「なごや環境大学(2005年開校)」などの成果が生まれました。

当社は上記団体のいずれにも創設メンバーとして参画して、他企業や行政、NPOなどとの幅広い交流を通じて「環境貢献をめざす地元建設業者」としての位置づけを確かなものにしてきました。

「EPOC」では主に次世代交流分科会に所属して活発に「環境出前講座」の実践に取り組み、近年では年間20件以上の「建設業者ならでは」の講座を児童館や小・中・高等学校などで実施し、その活動は「平成30年度名古屋市エコ事業所優秀賞」「2019愛知環境賞」の受賞に結び付きました。

小学校での環境出前講座の一例(当社保有工法のデモ施工)

平成30年度
名古屋市エコ事業所表彰式の模様

「なごや環境大学」の活動では、当社社員が長く実行委員会の一員を務めて同大学の発展に努めるとともに、会社として市民に開かれた環境講座(同大学の呼び名：共育講座)を開校以来16年間連続して企画・運営してきました。

当社の講座は、工事現場や名古屋市の施設見学、防災関連の現地視察などの内容で年間平均4回～5回開催しており、少なくともものべ千人ほどの市民受講生との縁を結んできました。

なごや環境大学共育(きょういく)講座の一例(防災施設見学会)

2019愛知環境賞授賞式の模様
(3回目の優秀賞受賞)

こうした市民や行政・他企業等との環境保全活動を通した交流によって、当社は「名古屋市エコ事業」として平成21年度、30年度と2回の優秀賞を受賞、「愛知環境賞」では2007年、2016年、2019年と3回の優秀賞を受賞しています。

(＊当社が展開する「次世代を対象とした環境学習活動」については前回までの社会・環境レポートでも詳しく紹介していますので、どうぞご参照ください。)

6 SDGsの時代を迎えての「環境」貢献…世代交代を無事に終えて

当社では前項までの「本業である建設業を通しての環境貢献」、「企業市民としての各種協働活動を通じての環境貢献」に加えて、都市内の生物多様性の保全・創出や食育・農業体験などを主な目的とした農園運営にも取り組んできました。

具体的には名古屋市守山区内に約7500㎡の果樹栽培農地を企業として市内初となる借地契約を実現、既植の梅の木に加えて新たにブルーベリー約400本を栽培して観光農園として人気を博しています。

ほかにも玉ねぎ・じゃがいも・にんにくなどを栽培して、障がい者や高齢者、子ども達の農作業体験も積極的に受け入れています。

天空のアグリパーク

ブルーベリー狩り

以上、概説したように当社の環境貢献は時代と共に変化してきましたが、変わらず基本にある思想は「人と自然に尽くす利他的態度」にあると考えています。

公共土木という当社の本業は「地域に不足する社会資本」や「保全して延命すべき社会資本」を発注者や地域住民に代わって整備するという極めて利他的な仕事であり、その姿勢は、いわば「企業DNA」として社員に共有されています。

社会の環境意識の高まりとともに、当社の「利他的な取り組み」の範囲は本業の社会資本整備だけではなく、自然環境の保全やさらにはより広い意味で「持続可能性のある社会づくり」をめざす「SDGs」を視野に入れたものへと発展してきました。

そして、当社では2019年秋に代表者の世代交代を図り、新たな時代に立ち向かう体制を整えました。これからも今まで同様に利他的精神を発揮して地域社会にさまざまな面で貢献できる企業として発展していく所存です。

次頁以降では、子会社の株式会社ナックプランニングの取り組みも含めて直近の社会・環境貢献活動についてご紹介しますので、どうぞご一読ください。

最近の持続可能な活動の紹介

株式会社山田組・子会社である株式会社ナックプランニングでは、近い将来発生する確率が高いとされる「南海トラフ巨大地震」に備えて地元名古屋市中川区の供米田(くまいでん)・豊治学区で地域のみなさんと共に防災訓練を15年連続で行ってきました。ここ数年、当社の社会貢献の取り組みが評価され、企業や大学、行政から防災や環境、人材育成に関する業務が増えてきています。

ここではナックプランニングの業務を兼ねたSDGsの活動の一部をご紹介します。

イベント(企画・運営、印刷物・グッズのデザイン等)

近年、継続的に関わらせていただいているのが「備える!中日サバイバルキャンプ」(2015年から毎年開催/中日新聞社主催)(初年度の名称は「レッドベア中日サバイバルキャンプ」)や、「防災・減災ピクニック」(2016年から毎年開催/日本損害保険協会中部支部主催)です。他にも、防災や環境等のイベントを数多く実施しています。

●備える!中日サバイバルキャンプ

「備える!中日サバイバルキャンプ」は、いざという時の防災の技を親子で学ぶ1泊2日の体験型キャンプです。昨年度は実施日前日に台風警報が発令されていたため、会場を名城公園から中日新聞社に変更し開催しました。

当社は、企画から当日の運営、各種の印刷物やグッズの制作を行っています。当日は、中日新聞販売店の方々や NPO、企業、学生ボランティアと連携・実施します。特に学生ボランティアの方には“次世代の防災の担い手”育成として、事前のレクチャー講習(月に1回、全6回程度)も行っています。

●防災・減災ピクニック

親子で参加していただく「防災・減災ピクニック」は、名古屋大学減災館で地震について学び、その後バスで移動して、名古屋都市センターで非常食を食べたり、なごやのまちづくりについて考えるワークショップを行います。また移動 (バス)時にはマップを使い、「なごや」のまちの歴史・地盤などを学びます 。

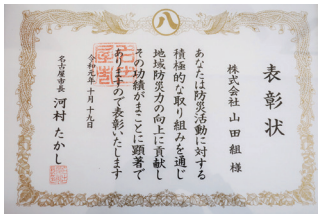
当社は企画から当日の運営、各種の印刷物やグッズの制作を行っています。子どもから大人までの幅人い世代が“防災”について楽しく学べるこの取り組みも、防災の次世代育成の一環となっています。

●ぼうさいこくたい2019

「ぼうさいこくたい（防災推進国民大会）」は、内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議が主催する国内最大級の総合防災イベントです。2016年より毎年各県で持ちまわりで開催しており、第4回となる2019年は名古屋市のささしまライブで開催されました。

当社は、中日新聞社から依頼を受け、名古屋大学が実施するプログラム「プリンで地盤の揺れを学ぶ」「耐震を学ぶストローハウスづくり」の運営を手伝いました。

なお、この「ぼうさいこくたい」にて、山田組の長年にわたる地域防災大会の取り組みに対して、名古屋市長から、防災貢献表彰状を授与されました。



表彰状

株式会社 山田組 様

あなたは防災活動に対する積極的な取り組みを通じ地域防災力の向上に貢献しその功績がまことに顕著でありますので表彰いたします

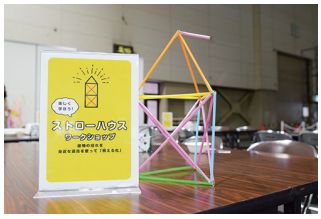
令和元年十月十九日

名古屋市長 河村 たかし

●健康未来EXPO 2019

第30回日本医学会総会 2019中部の一環として、3月30日（土）～4月7日（日）に，市民展示として「健康未来EXPO 2019」がポートメッセなごやで開催されました。

当社は株式会社アシストコムから依頼を受け、防災エリアで耐震構造を学ぶことのできる2つのプログラム「ストローハウス」と「紙ぶるる」を実施しました。



●小学生用演劇　伊勢湾台風を忘れない

伊勢湾台風60周年にあたる2019年度に、名古屋市南区役所からの依頼を受け、次世代への「伊勢湾台風」の伝承と大災害に備えることを目的とした「伊勢湾台風を忘れない」という、小学生用の演劇台本とBGMの作成、大道具の作成、演技指導などを行いました。この演劇は南区の小学校で発表され、次年度以降も各小学校で使用される予定です。

豊川市防災センターのディレクション・展示物製作

豊川市防災センターは、「見て、学んで、備える」をコンセプトに、地震体験、プロジェクションマッピングでの被害想定、模型による防災に関する展示、ワークショップなどを通して、災害の実態と対処法が学べる施設です。

このセンターの防災啓発品は、名古屋大学と豊川市の共同事業で検討され、当社は全体のディレクション業務と展示品の制作などを担当させていただきました。

環境デーなごや　「ワッカモノビレッジ」の企画・運営

当社の平石が、なごや環境大学の実行委員として「ユースチーム」に所属し、主に大学生を対象として環境に関わる次世代の育成やその環境づくりに力を入れています。

例えば、毎年9月に行われる環境イベントの「環境デーなごや」では、大学生ボランティアとともに「ワッカモノビレッジ」という名称でブース出展を行いますが、その企画や内容を大学生と一緒に考え、実施・運営に向けて、様々なアドバイスを行っています。

なお、平成30年度には、「環境デーなごや」において、山田組のなごや環境大学共育講座や環境パートナーシップ・CLUBの環境出前講座として年間20件以上実施している次世代への環境教育の実績と、運営している農園において行っている、農業体験と防災・環境教育を組み合わせた継続的な社会貢献活動が評価され、「名古屋市エコ事業所優秀賞」を受賞しました。

頁担当：管理部 ナックプランニング 東出

YAMADAGUMI SPIRITS

YAMADA 株式会社 山田組

本社 〒454-0962 愛知県名古屋市中川区戸田５丁目 1213 番地
TEL：(052)301-6121　FAX：(052)303-2715

HP http://www.yamadagumi.jp/
http://ymd-corp.com/（求人サイト）

MAIL kanribu@yamadagumi.jp